

## 令和6年度第3回一関市総合計画審議会 会議録

- 1 会議名 令和6年度第3回一関市総合計画審議会
- 2 開催日時 令和6年8月29日（木） 午後2時から午後4時まで
- 3 開催場所 一関市役所 2階 大会議室B
- 4 出席者
  - (1) 委員 泉賢司委員、伊藤拓也委員、岩渕一司委員、宇津野泉委員、及川恵理子委員、小野寺忍委員、加藤沙央里委員、小岩邦弘委員、西條恵美子委員、齊藤裕美委員、菅原美津代委員、菅原秀文委員、千葉真美子委員、徳谷喜久子委員、藤本千二委員、星義弘委員、吉田捺委員
  - ※欠席者 阿部利彦委員、大内早智子委員、小山亜希子委員、佐々木承子委員、佐藤弘子委員、東海林訓委員、千田久美子委員、千田好記委員、船山賢治委員、吉田正弘委員
  - (2) 事務局 今野薫市長公室長、小山隆之政策企画課長補佐兼政策推進係長、佐々木さやか政策企画課主任主査、渡辺苑子政策企画課主任主事、谷藤義拓政策企画課主任主事
  - (3) 一関市総合計画策定支援業務受託者 株式会社邑計画事務所 及川一輝取締役

## 5 内 容

### (1) 議題

- ア 市民ワークショップの結果について
- イ アンケート調査の結果について
- ウ 総合計画、総合戦略、人口ビジョン一体化後の体系案について

- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者の数 1人（うち報道機関 1社）
- 8 小岩会長挨拶

5月開催の前回審議会以降、アンケート調査とワークショップを行った。本日はその結果について、皆様からご意見をいただく。忌憚のないご意見をお願いしたい。

## 9 審議内容

### (1) 次期計画策定に係る市民ワークショップの結果について

事務局から資料No.1に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 イベントについての意見があったが、一関市には屋外の会場がなく、野外音楽堂があれば賑わいにつながるのではと思う。資料で10～30年後の未来として

挙げられていた「やりたいことができるまちになっている」は、例えば野外音楽堂を一関駅東口に作れば、5年後に実現できる。

委員 私はオブザーバーとしてワークショップに参加したが、この審議会で出てきた課題が、ワークショップの場でも出ていた。若い人たちが感じている課題や不安、求めていることなどに、1つずつ対処していくことが必要と感じている。地域も行政も、投資的なものを含めて今取り組まないと、5年後10年後と、活気はどんどんなくなっていく。

委員 ワorkshopに参加して、若い人たちが市外に進学した後に戻りたくなるまちにしたいと思った。高校生からは賑やかな場がほしいという意見があり、娯楽の場がある、夢のあるまちづくりが必要だと感じた。

委員 私もワークショップに参加した。高校生が地域に誇りを持っていることを知り、頼もしく思った。

ワークショップ全体として各地域の話題に限定されてしまい、なかなか市全体の話にならなかった。ワークショップの持ち方としても課題であるが、今の一関市全体の動きを、高校生を含め、市民が受け止められていないのではと感じた。

委員 「外国人との交流の機会が少ない」という意見を見て、国際交流協会ですまざまな事業を行っているが、それが市民に適切に届いていなかったと気が付いた。

また、事業をするに当たり、日本人の考える外国人のニーズと実際のニーズが異なることがあるため、ワークショップに外国人の枠を設けることも検討してはどうか。

委員 若い人が一関市に戻ってきたいと思うためには、ここで生活する時間が地域に溶け込んでいることが重要である。働く場があることは必須だが、地域で若い人たちにイベントの企画などを任せ、若い人は一生懸命取り組み、楽しんだ思い出を重ねることで、一関市に定着するようになると思う。

委員 肌感覚では、一関市は生活をする場ではないと思っている。自分が若かった時を振り返っても、特に変わった部分はなく、現状維持と感じている。

委員 先日、東山町の唐梅館公園に行ったが、遊具が使用禁止になっていた。大船渡市や北上市から来ていた親子も残念そうにしていた。住む人が増えることは望ましいが、近隣に住んでいる方から「遊びに来たいまち」となるのも必要だと思う。一関市に行きたいと思わせる環境づくりをしてほしい。

委員 進学して一関市から出て、帰りたいけれど仕事がないから戻れないという状

況があるため、やはり仕事が重要である。仕事の魅力を作っていかなければならない。アンケートで企業の連携を重要とする回答が多かったこともあり、連携などで新しい仕事を作り出すのもよい。行政はこれまでのコストカット重視の方向性から、考え方を变えることも必要だと思う。

委員 このワークショップの結果が、新しい将来像と基本目標の検討材料となるが、材料としては少し弱く、切り込む視点が必要だと感じた。「自然災害が少ない」などは、想定を超える災害が突然発生している現代においては危機感が薄いと思う。命と財産を守ることができる一関市であるべきである。

(2) 次期計画策定に係るアンケート調査の結果について

事務局から資料No.2に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 転出者アンケートで「機会があればもう一度一関市に住みたい」と回答した方が70%というのは希望を感じるが、住みたくても仕事がないというのが一番の課題だと思った。一ノ関駅東口周辺の状況や工業団地の整備にも期待しており、また、子どもたちが安心して育つ環境づくりも必要と考えている。

委員 「一関市の住みやすさ」について、年代別の回答状況と選択の理由を知りたい。

また、働く場について、今の高校生などのやりたい仕事はどういったものか把握し、必要であれば起業支援や企業誘致を行うほか、仕事の魅力や多種多様な業種、仕事があることを伝えることも必要と感じた。

希望の子どもの数が「0人」という回答について、望んでいないという理由だけではなく、経済的理由などを背景に「0人」と回答した人もいないか。

課題はさまざまあるが、メリハリをつけた対応策を講じ、段階的に行うなどの長期的な視点で詰めて行う必要があると思う。

委員 アンケートでもワークショップでも、「子どもを預ける場が足りない」という声が見られるが、保育現場にいる立場から言うと、実際は預かる場は十分にある。地域による偏りは若干あるが、このような結果の一番の原因は、知りたい人に情報が届いていないことだと思う。県内で比較しても一関市は子育て支援が充実しているが、必要な人にその情報が届いていない。そのため、子育ては大変というイメージが払拭できず、結婚や子育てに対する気持ちを育てられない若者が多いのではないかと考えている。

委員 中高生アンケートについて、高校生は進学を前提に回答していると思うので、中学生と高校生とで分けた結果を見たい。また、大学を卒業する機会に一関市

に帰ろうという気持ちが少しでもある人に対し、そのタイミングで一関市をうまくPRできていないのではと感じる。例えば、関東圏に進学すると実習などで東北に来ることが難しく、そういった点でも一関市をPRし、戻ってくる機会を提供できるような仕組みがあればよい。

市民アンケートの間30～問33の中心市街地に関する設問について、どこの商店街についての回答か、現在の集計ではわからないため、地域別に整理し提示してほしい。

委員 アンケート全般において、賃金が安いというのが一番大きな課題なのではと思った。収入を比較すると他の地域の方が高いので一関市に戻って来ないという声を聞く。対策、研究が必要である。

結婚への意欲については、なぜ結婚に魅力を感じないかを少し突き詰めて探っていく必要があると思う。また、結婚せずにひとりで暮らす人が増える20年、30年先のことを考えて、計画を組むことも必要になってくる。

委員 企業が豊かにならなくては賃金を上げたくても上げられない。どの辺りまで企業にアプローチできるものか。また、賃金だけではなく子育てのための休暇などについても、企業に対して市でどのくらいアプローチできるものか。

企業誘致について、ものづくり人財の育成・確保・活躍に係る包括連携協定の締結があったが、将来に向けどのような方向性で進めていくのかが見えてくるとよい。

事務局 ものづくりについては、これまで工業団地において、製造業を中心に進めてきた経緯があり、現在は自動車関連産業が大きな要素を占めている。このほか、現在は、起業に対して支援を行っており、サービス業などのものづくり以外の方向性も掲げている。市長が以前から言っている「100億売り上げる会社1社ではなく1億売り上げる会社を100社」という考えのもと進めているところである。

委員 アンケート全体として3つのポイントがある。1つ目は子育てであり、令和元年度の結果と比較して評価を受けていることは、さまざまな子育て施策を行っていることの一定の成果と受け止めた。2つ目は職で、子育てにおける課題として挙げられているお金がかかるという部分や出産時における女性の仕事に関する課題は、いずれもお金の問題である。さまざまな分野の課題が仕事につながっている状況であり、行政としても支援できる部分を研究していく必要がある。3つ目は循環で、地域のを地域で買えば、お金が地域で回る。地域を地域で支える仕組みを作る必要がある。

委員 アンケート調査の結果で、「まちづくりは市民と行政が協働で行うもの」とい

う回答の割合が非常に高かったが、最近、行政が地域の会議になかなか出席しない状況である。地域全体のさまざまな課題やこれからの方向性を話し合うような場には参加してもらい、お互いに意見を出し合って地域づくりをしていきたいと考えるので、出席してほしい。

(3) 次期計画基本構想体系案について

事務局から資料No.4に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 「視点2：ひとづくり」に例示されている子育て環境の充実の中で、行政の役割に「妊娠から小学校入学時までの継続した支援」とあるが、妊娠前から高校卒業までなど支援をする期間や幅を広げ、子育て環境を充実させてほしい。

事務局 一つの例として、子育て環境の充実という項目を「ひとづくり」に位置付けた場合の具体的な施策などを例示したものである。基本計画の視点としてご意見を承り、複合的継続的な子育てという形で組み込んでいきたい。

委員 転入者、転出者アンケートを読み解いていくと、商業・サービス業を振興させることで、働く場とまちの賑わいを作ることができるのではないかと考えることができる。何かを頑張っている人に焦点を当てたPRなどもできるのではないかと。

もう1点、この場でさまざまな意見が出ているが、これらの意見は担当課につながっていくものか。

事務局 担当課に共有する予定。

委員 アンケート、ワークショップの結果に、地域差を感じた。一関市は広い面積が特徴であり、子育てのしやすさ、商業の振興度合い、交通の便など、地域により受け止められ方が異なっている。地域別の視点での分析も必要と考える。

委員 アンケート結果について、子育てに関係する部分が気になっている。自分の親の様子やこれまでの風潮などから子育ては大変というイメージが定着しており、自分で道を選ぶことができる時代の中で、大変なのであればと結婚も子育てもしないという道を選んでしまう気持ちは理解できる。必要なのは情報で、支援策などの説明をしっかりと届け不安を取り除けば、出産するという道を選ぶ人も出てくるのではと感じる。地元定着についても、小さい頃から一関を好きになるような教育をすれば、残る人が増えるのではと思う。

委員 子育てをしているが、公園の遊具などは封鎖されているものが多く、子どもを遊ばせる場がない状況。お金がかかるという点もそのとおりで、国民健康保険税や保育料、その他さまざまな面でお金がかかる。自分は農家であるが、全体の給料が上がれば、出荷している野菜の値上げにもつながるため、まずはどのようにすれば皆さんの給料が上がるかというところから始め、公園の復旧な

どもつながっていくと良いと考える。

10 担 当 課 市長公室政策企画課